
僕日記

suke

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕日記

【著者名】

s u k e

【ZPDF】

N1617

【あらすじ】

おもしろコメディといつ訳にはいませんが、日記の良さを思う存分書いています（？）。

ただの日記を、書く工程から読み返すところまで、書きました。すぐ、終わるので是非読んで下さい。

日記開始

「僕は、仲井小学校5年4組、^{かみ まもる}加美護。今日、5年生になりました！そして、初めて僕の大好きな由宇ちやんと同じクラスになりました！」

憧れの由宇ちやんと同じクラスなんて……めっちゃ、うれびー————！

それに、このクラスには俺以外で顔がいい奴は、誰一人いな……・・・・・んつ！

「、じいつは、^{そう}想じやねーか。同じクラスだったとは……くそつ！」

いや、でもあいつは最近、及川と結構いい感じだからな。その隙に・・・フフツ。

9年 4月8日 8:02

200

と、今日から日記を始めることにした。

この時代に、日記。

続くか？・・・・・・・・

そんな心配をよそに、母さんの声が部屋中に響いた。

「じ飯早よ食べろや————！」

いきなりドアを開けられ、使い慣れてない関西弁で怒鳴られた。僕は、完全に日記に気を取られていて、時間を忘れていた。

もう8時だ。

「護ーご飯が冷めるでしょーやろ。」

関西弁で通すなら、もっとちやんとキャラを固めてきてくれ。

「わかった、わかった」

テキトーな返事で無理やり、母さんを部屋から出した。

それにして、日記、じーこしまおーかな。

とりあえず、勉強机の鍵付き引き出しに入れとくことにした。
そして鍵は、・・・・・ワンピの1巻の111ページに隠そつ。
おつーちゅうど、ページ数書いてあつた。ラッキー！
ページ数書いてないとこつて結構あるからなー。

フムフム・・ゾロが、ああ！そついえばね・・・・・。
フフツ・・・・・ヘルメツポ・・・・・・・・・・・・おつと。
ちよつと読み出すと止まらねんだよなー。
鍵の場所を小つさい紙にメモしてつと。

・・・よし、これでオツケー・・・だよな。

こうゆうのは、なかなか安心できないだよなー。

まあ平氣だろ・・・・・うん。

こうして僕は、リビングに向かつた。

そつをから、口ロツケの匂いプンプンしてたからなー。

ああ～食つたぜー。

あつ、これ日記に書いとこ。
つて、しょこたんブログか！
よし、独り漫才成功。

「今日のタご飯、口ロツケ食つた。
やつぱ美味しだよねー。

200

9年 4月8日 8・50
結局書きました。

といえば、日記つて話し言葉で書くのかなー？
ブログみたいに誰かが見る事はないのに・・・?
まあいいか。

話し言葉で書きます。

そんなこんなで、日記一日目終了。
明日からサボらず続けていくぞー！
と、自分にエールを送りつつ疲れていたのか、すぐ眠りについた。

口述開始（後書き）

お初投稿です。

がんばつて書いたんで、読んでくれてありがとうございます。
また、書くのよろしくです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1617j/>

僕日記

2010年10月10日19時21分発行